

●プレゼンテーション

長期安定性と正確性を兼ね備えた Ca 測定試薬

○木下 良治, 松村 征爾, 吉田 博(ニプロ株式会社)

総カルシウム、「信頼性の高い検査値」を安定的に得る方法があれば内部精度管理の効率が良くなりませんか。

「信頼性の高い検査値」を基に診断を下す。当然のことながらそれを得るために日々努力されているのが検査室の先生方です。分析装置や試薬が改良され、より精度の高い検査値を得ることが可能となっている近年においても総カルシウムの測定値はまだ安定しないという声をよく耳にします。「安定しない」という言葉には色々な要素が含まれており、それらは、開栓後の経時的な感度の変動や正確性の問題であるともいわれています。

ニプロは、2003年3月に発売したエспа・Caによってこれら問題を解消し「信頼性の高い検査値」を得るための力添えができつつあると信じています。エспа・CaはアルセナゾⅢというキレート剤を用いた1試薬系の液状試薬で、pH=7.6に調整してあるので開栓後空気との接触によるpHの変動もなく感度が長期間安定しています。試薬の構成は1試薬系でも溶血、黄疸や混濁の影響を殆ど受けません。また、学会等で議論されている正確性についても、他の金属イオン(Mg)や蛋白結合型Caの影響も少なく、標準法とされている原子吸光法とも良好な相関性が得られており、認証標準物質(SRM及び

JCCRM)にトレーサブルとなっています。

エспа・Caの特徴をまとめると以下の通りです。

- ① 開封後の安定性が優れている
- ② 共存する他の金属イオン(Mg)などの影響を殆ど受けない
- ③ 原子吸光法との相関性が良好である
- ④ タンパクの影響も受けにくい

今回は、発売後約1年間でご採用いただいた施設の評価結果を含め、エспа・Caの特長について説明させていただきます。

(連絡先：ニプロ株式会社 077-564-0500 (総合研究所))

